

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.7

2012年11月22日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

本当に学区拡大してよいのか(5)

学区拡大によって 高校入試はどのようなのか

県教委は、現在の16学区を2015年度入試から、5学区とする基本方針を公表しています。同方針に対しては多くの問題点が指摘され、反対の声が広がっていますが、ここでは受験生にとってある意味では最大の関心事である入学者選抜学力検査(以後高校入試と記します)について考えてみます。

3月に実施される公立高校における複数志願選抜および単独選抜の入試問題は教育委員会が作成しています。学区拡大は入試問題についても新たな問題を引き起こし、高校入試が抱える問題をいっそう大きくするものです。

高校入試に必要な3つの原則

現在の高等学校が発足した当初、当時の文部省は、高校はすべての中学修了者に門戸が開かれているものであり、希望者の全入をめざすべきであるとしていました。その後、「適格者主義」へと立場を変えましたが、国民全体の教育に対する強い要求のなかで、高校進学率が90%を超えるようになっていくことは周知の通りです。

そのなかで高校入試が必要かどうかという根本的な問題はありますが、ここではそのことは問わず、現実に入試によって不合格者もでていくという現状のもとで、入試がどうあるべきかを考えてみます。

高校入試は、次の3つの点を満たすものでなければなりません。

第1に、中学卒業時までどのような学力を身につけているのかを、できるだけ正確かつ全面的に判断できるものでなければなりません。

第2に、高校受験対策によって、中学校での教育内容が著しく歪められるものであってはなりません。

第3に、受験生にとって、公平な採点が確保されるものでなければなりません。

これらの原則に対し、学区拡大はどのような問題点をもたらすのでしょうか。

学区拡大の問題点1：一層拡大する「競争の教育」

第1の問題点は、いうまでもなく競争の激化です。学区が拡大されたなかで各学区でひとつでも上位とされる学校をめざそうとすれば、県下全体に1点を争うような受験競争がいつそうひろがっていくこととなります。そうなると子どもの成長に欠かせない中学校での学校行事等にしわよせがいくことは必至です。また、高校受験指導に特化した塾が幅をきかせ、中学校教育そのものに影響をあたえることもいっそう顕著になるでしょう。現在でもすでに一部の学区では中学校における調査書の成績を上げるために体育の塾にまで通っているという状況がありますが、そんなことが全県に広がっていくことになりかねません。

学区拡大の問題点2：公平性が保障されない複数志願制での学区拡大

第2の問題点は、全学区とも複数志願選抜制とセットになることから生じる問題点です。複数志願制の場合、少なくとも同一学区内においてはすべての高校の採点基準が厳密に一致していなければ、受験生に不公平になります。現在の複数志願選抜実施学区やかつての総合選抜学区においては、採点の公平を期すために、学区によって多少の方法上の差はあるものの各高校の教科担当者が顔をあわせて、細かい点まで採点基準を検討し、可能性のあるあらゆる解答に対して学校間で差が出ないようにしてきました。しかし、こうした作業は各学区で多くても10校程度であったからできたことです。今回の学区拡大が実施されれば、学区内のすべての学校から各教科の採点責任者が集まって、協議することが著しく困難にならざるをえません。そうすれば、正解かどうか微妙な解答について、高校によって、点数が一致しないという懸念が起こってきます。高校現場では率直に「県は一体どうするのだろう」という声が多数あがっています。

学区拡大の問題点3：中学教育をゆがめる、学区拡大による入試

第3に、上記の不公平をなくすための方法を徹底して追求すれば、結局は、すべての問題に選択肢を用意する、いわゆるマークシート方式に行き着いてしまいます。この方式を採用すれば、確かに不公平さへの心配は解消されるでしょう。高校現場でも、「採点ミス問題もなくなり、公平にもなるからマークシートにすれば」という意見も出てくる可能性があります。

しかし、マークシート方式の重大な問題点は、知識の定着などの生徒の学力の一部はみることができるが、思考力や独創性、解答にいたる思考過程など生徒の学力を評価する上での重要な要素をほとんどみることができないことです。もちろん知識の習得・定着は必要です。しかし、それしか問えないことが問題なのです。

すでに県教委が作成している学力検査問題についても、特に、「採点ミス」問題以降は単に知識を問う問題の比重が高まっている傾向があります。複数志願制で学区を拡大すれば、たとえマークシート方式を採用しなくても、知識の定着や計算力等の一部分の学力しか問えない入試問題にならざるを得ないという傾向がいつそう強まるであろうことは十分予想されます。そのことは中学校の教育内容を知識偏重、暗記中心の受験教育にかたよらせる可能性をいっそう高めていくことになるでしょう。

以上のように、学区拡大は中学教育そのものの困難をいっそう増大させることにつながるものです。